
ペテン師はめんどくさがり屋

空萬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペテン師はめんどくさがり屋

【Nコード】

N4643U

【作者名】

空萬

【あらすじ】

これは自称ペテン師と呼ぶが高校でどのように、活躍し、どのようなのか温かい目で見ていただく小説です。

「こんなの絶対間違ったるわー!!」

彼はそう言った

「世の中腐っていやがる……」

彼は15年生きてわかったことだ…

そんな考えを持つ高校時代は！！

「世の中ズルい奴が一番賢いんや…なら俺は！！」

初めての小説なので間違いがあるかもしれませんがよろしくお願いします。

プロローグ（前書き）

駄文でもつしわけありませんがどうぞ。

プロローグ

僕は思った。

今の世の中腐っている。

まずは国家だ…

この前原発が危ないとかで今も混乱している中で総理大臣が現地に行った。

俺は思う…

「人災を何かのイベントと勘違いするなよ!!」と…

次は学校だ…

よく世間で騒がれているイジメ…

先生や親が「やめよう」というが実際は違う…

面倒だからだ…だからイジメがあって問題になる。

僕もその一人だったりするが…

この世にヒーローはいない…そう昔テレビで憧れていたヒーローはいない。

今テレビにいるのは現実それも腐っているマスコミ…

「この世に悪があるとするとそれは人の心だ」

僕が持っているゲームで印象あるセリフだ。

そうこの世にヒーローはいない…あるのは腐った現実だ。

だから僕はこの現実から生き延びるためぺてん師になる…。

たとえなにがあろうとも…

プロローグ（後書き）

登場人物の名前を考えています。
感想、意見をお願いします。

一話（前書き）

主人公のプロフィールがしばらく続きます。

一話

僕は普通の人とは少し違う所がある。僕は二重人格だ。

正確にはある条件が当てはまったらもうひとつの人格になる。おっ

キキツ…「ここが…僕の新しい…」

そう今、僕は高校の見学に来ていた。それを兼ねて道のりも覚えていた。

「高校では誰の迷惑もかけず過ごそ…」

僕はそう言って高校をあとにした。

やっぱり迷うな。道が分からないや。

やべっどうしよ…

あいつら柄悪っ関わらん方がいいな。

ヒッチハイクって意外と出来るんやな。助かったわ。

テクテク…ガチャ、ドサツ…
Z
Z
Z

一話（後書き）

感想、意見をお願いします。

二話（前書き）

グダグダはいけないか…

二話

ここは…何処だ？ああ家か… 引っ越してきてあまり日にちがたっていないから違和感が凄くあるな…
飯を作るか…

――――
今は午前11時世間は昼飯を作るためスーパーに買い物などするが、僕はさつき起きたためご飯はいらない。となると外に出てお腹を減らすのが先決だな。

――――

外にでて道が解らん。
まずは人通りの多い所しかない。

――――

キヤーアブナイ！ オイマジカヨ…

あれなんだ？あまりああいうのには関わりたくないな…ん？なんかこっち来たぞ！！

「助けて！」

~~~~~

はい何かきたよ…

僕は普通の人とは本当に違う。面倒なことに巻き込まれてしまう体質だ。

だからあまり人と関わらないようにしたのに…  
とりあえずリアクションをとるか…

~~~~~

「どうしたんですか？」

「あの男に…ウウツ」

あの男…なんていうか…ヤバい顔しているな。

「オイそこの餓鬼」

「何ですか？」

ここはポーカーフフェイス、ポーカーフフェイス。

「その女から離れろ…離れないと…病院行きだぞ…」

クソッ、なんでこうなるんだよ。周りは俺達を中心に離れてるし、
野次馬はケータイを使って写真やらTwitterしてるし、ばか
騒ぎまでしていやがる…本当に腐っていやがる…クソッ！

ここは空気をよんで主人公のように闘うか逃げるかのどちらかな。
まず闘うのは無理だ。相手は図体はデカイ、いかにも喧嘩慣れして
いそつだ…

逃げるはきつい…野次馬達に阻止されていもうからだ…しかもここ
は人通りが多い…これからお世話になるのに…どうすればいいんだ！

二話（後書き）

感想、意見をお待ちしています。

三話（前書き）

だいぶ経ってしまいましたね。すみませんでしたm（
—
—
）m

三話

「オイオイ、何をやっているのかね？」

えっ？いきなりこつち来やがったぞ！

「なんだ？オッサン？今は大事な所なんだ…とつとでていけ…」
ソウダ、ソウダー ナニアイツー キモー セツカクイイトコロ
ナノニー

デカイ奴は声のトーンを下げ殺気がこもった声になった。当たり前か…いきなり第三者の登場で皆切れるわな。

「私は警察だ！今すぐ止めなさい！その貴方署に誘拐未遂で連行します！」

ノホッ！まさかの私服警察官！ありがてえ！

「チッ！クソッ！」

ぞろぞろ…アーツマンネ イコーゼーケイサツトカwww

フウー難去ったか…

「お巡りさんありがとうございます」

「それより二人共少しいいから、何そんなに警戒しなくてもいいよ。ちよつとだけだから…その店に入ろう。金は私が払うよ。」

「私は構いませんが彼女は…」

「今急いでいるので…」タツ、タツ、タツ…

「逃げましたね。あの女…」
「まあ構わない、とにかく行こう。」

――

「何を頼む？」

「では…コーラとポテトを…」

「お昼まだだろう？遠慮するなよ」

「…ハンバーガー三つとポテトとコーラ」

「まあそこそこだな。私はコーヒーだ」

あの警官何者だ？けど飯代が浮いたぜ♪

「話ってなんですか？」

「さっきの事だよ。なかなか面白い事やってくれますね。」
「あれは巻き添えですよ」「災難だったね…」

「本当にそうですよ…お巡りさんがきていなかったら終わっていましたよ。」

「その事なんだが…」

「ん？」

「私はお巡りさんじゃないよ。」

三話（後書き）

やっと主人公の名前が出せます。ヤッター〇（ ）〇

四話（前書き）

間抜けな作者ですみません m () m
四話をどうぞ。

四話

「じゃあ、どうして？」

「それは…あれかな？君が困っていたから？」

「私に振らないでください…」

「ああ、ごめんね、こまっちゃおうよね」

~~~~~この人は稀に見るタイプだ…

よく言えば正義感の強い人だが、悪く言くと偽善者だ…しかし話している人当たりのよい人格をしているな…まあもう少し付き合うか…

~~~~~「そういえば、自己紹介がまだだったね…オホン、遠藤と言います。職業は近くの会社で働いているよ。」

「私は仁…一之瀬仁です。」

「ハッハッハ、堅くならないでいいよ。何時も友達と話しているような話し方でいいから。」

「分かりました…そうします…」

「さて…本題に入ろうか、一之瀬君。」

~~~~~このおっさん怪しいな…自己紹介の時も、名前だけしか言わないし、初めて会った時だって大声で野次馬に注意した。そこまではいい。…けど、近くで働いているとなると話は別。この人はこれから商店街で目立つ存在になる。それと、職場に

いくと間違はなく何か聞かれるはずだ。そういついざこざはやっぱり組織にいる限り避けたいと思う。まあ、本当に偽善者ならいいけど…

「さっきのこと…ですか？」

「ああ、君の対応が慣れていたからね。少し気になったんだよ」

「いえ…そんなことは…（バレた！）けど遠藤さんも凄いいじゃないですか。あんな野次馬の前で、大声で叫んだりして、あの声聞いた時はビックリしましたよ。」

「あの時は夢中だったからね」

「かつこよかったですよ。」

「いやいや…だいぶ時間がたってしまったね。そろそろ出ようか？」

「分かりました。今日はご馳走になりました。ありがとうございました。」

「今時の子にしては、礼儀正しいな…おじさんビックリしたよ。じやあ、また何処かで…」

そついうと遠藤さんは人混みの中へ消えた…

「さて、俺も行くか…」

## 四話（後書き）

四話にして主人公の名前登場！ 次回は主人公のプロフと、この小説の読み方について簡単に説明します。

## プロフと説明と…（前書き）

前回の後書きに書いたように、今回は先に進みません。

## プロフィールと説明と…

プロフィール 01

一之瀬 仁

性格

めんどくさがりだが、やるときはやると切り返しができる。

特技

ポーカーフフェイス

見切り

その他

本人が言うように二重人格。仁自身も自覚はあるが、まだ数回しか入れ替わっていない。

年上の人には、敬意をはらうという真面目な一面もある。

この小説の読み方

ども、作者の空萬です。

今回はぺてん師はめんどくさがり屋の作品がより読みやすくするよう、簡単な説明をさせてもらいます。

皆さんはこの作品を読んでいる時、棒線がありますよね？その事について説明します。

――――→  
場所移動を表します。

~~~~~→  
会話中の心の声。〜が挟まれている所が心の声となります。

以上です。

いつか説明をしたかったのですが、なかなか決心がつかなくて、主人公の名前が出たということで、今回やらせてもらいました。
ありがとうございます。

読みにくかった方はすみません。 m (――) m 作者は文才が無いものなので…(文系なのに)

さて、今回はここまでです。ここまで各話1ページしかない作品ですが、これからもよろしくお願いいたします。(o^ - ^o)

五話（前書き）

遅れてすみません。
ではどうぞ。

五話

キンコーン、カンコーンキンコーン、カンコーン
チャイムが鳴る。

当たり前だ。ここは学校だからだ。

今日は俺の初登校日…この街での新たな一歩とはい言い過ぎかも知れないが、そのくらいの気持ちだ。何はともあれ、頑張ろう…。

まずは職員室だな。

――――

どんな学校でも最初は少なからず迷ってします。当たり前だ。案内図も何も持たされていないからだ。これじゃゲームの主人公がどの方角に進めばいいかわからないくらいだ。
くそ、なんか恥ずいけど人に聞こう。

「すみません、お時間よろしいですか？」

「ん？何？」

事情説明中…

「ありがとうございます。」

さてと行きますか。

――――

職員室

「失礼します。今日再編入する一之瀬仁と申しますが…」

なるべく大きな声で言おう。

「ハイハイ、聞こえているよ。ようこそ学園へ。すまないが君の担任は先に教室にいつてもらっているから今から僕が案内するよ。」

「わかりました…」

「じゃついてきて早くしないとHR始まるよ。」

—————

教室前

ああ緊張してきた。こういう時、ゲームで2周目では強くてNEWコンティニューが出来るけどここは現実で人生は一回しかないんだ。つて俺はなん考えてるんだ！しっかりしろ！！

「じゃ、入ってくれ。」

キター！まあ流れに任せよう…

ガラガラ…ピシャッ！

コツコツ…ピタッ！

クルッ！

「一之瀬仁です。親の仕事によりこの学校に来ました。まだ慣れて

いない事ばかりですがよろしく願いします。」

ザワ…ザワ…

成功？失敗？

ネーアノテンコウセイー

ん？

コノマエシヨウテンガイデカラマレテイタヒトダヨー

な、なんだって！…って当たり前か…商店街だからな…それは仕方ない。てか、ラッキーじゃね。話の種が出来たじゃないか。

ソレデネーウチノタンニンノエンドウタスケラレテヤンノウウ

え？

「もう自己紹介はいいだろ。何かあれば本人に聞いてくれ。それじゃHR終わり。このあと全校集会だから遅れずに行けよ。」

キリツ、キョツケーレイ。アリガトウゴザイマシタ。チャクセキ。

振り返るとそこにはこの前のおじさんがいた。

――――

体育館

来てそうそう最初に座るのが床か…ついてないな…。

ん？背中を誰かつついてきた。誰だ？

「よ、転校生。」

軽く手をチョップの形にしながら挨拶してきた。

「どうだ、この学校どうだ？お前って部活入る？何部？」

まっありがちと言えばありがちなんだが、ウゼーな。質問の内容薄
いがいいや。

「まだ決めてない……」

「そっか……前の学校ではなんかしてた？」

「別に……何も……」

「そっ……あつ俺、平野順平ってんだ。よろしく。」

「俺は一之瀬仁よろしく。」

「さっき聞いた。」

うっせー、確認だよ。

「なあ早速だけど質問いいか？」

「いいけど？」

「実はさ、さつき女子の話聞いたがお前絡まれたらしいな。」

~~~~~

いきなりそれかー。オイオイ後ろの奴まで聞く気満々だぞ…無難に答えよ。

~~~~~

「そだけど？」

「それでうちの担任の遠藤が助けたんだよな？」

「ああ、さつき気が付いた…」

「で、どうだった、危ない奴に絡まれた感想は？」

「あまり気持ちの良いものじゃないな。」

「ハハッ、だな。」

~~~~~

なら質問すんな。教師に絞められたらどうする！

~~~~~

「その生徒二人！立ちなさい！」

まずっ！！

スクッ…

ザワ…ザワ…

くそっ！！

平野…お前…！

「こっちこい！」

「うわっ…！」

「……」

いきなりかよ…強くて引つ張るんじゃないねえ…そこは…アッー！レー！

――――

体育館外

「たくっ お前達は…」

「スンマセン」

「……」

「ハア、とりあえず平野。お前は戻れいいな？」

「了解です。」

「一之瀬は残れ…少し話がある。」

「わかりました。」

俺は残る事になった。丁度いいか、サボる事も聞きたい事もあったしな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4643u/>

ペテン師はめんどくさがり屋

2012年1月9日03時49分発行